



畦畔管理を兼ねた「シバザクラの里」で集落活性化

の み ひがしひろしま
乃美エコクラブ（広島県東広島市）

- 活動地域である東広島市豊栄町乃美地区は、人口の約34%が65歳以上で、農作業に携わる者も高齢化により畦の草刈もままならない状態になっていた。
- 当組織の代表を中心として、(独)農研機構の難防除雑草の防除技術と広島県立農業技術センターの防草シートにシバザクラを組み合わせた技術を融合させ、草刈作業の不要化を試みた。特に平成19年度には、高さが16mもの法面へシバザクラを植栽し、法面の省力管理と景観形成を図った。
- 育苗・植栽技術講習会を開催し、当地域の活性化と他地域への技術の普及を進めている。
- 様々な団体と協働・連携し、田んぼの生き物調査や、地域に多数存在するため池を活用した新しいイベントの開催、特産物の開発等を計画しており、さらなる集落活性化に向け前進している。

【地区概要】

- ・取組面積 65ha
(田60ha、畑2ha、草地2ha)
- ・資源量 開水路24.3km、農道14.6km、
ため池30箇所
- ・主な構成員
農業者、県立高校、自治協議会、
シバザクラ愛好会 等
- ・交付金 約5百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

防草シートを使った畦の 管理作業の負担軽減



- マルチ被覆とシバザクラを組み合わせた大規模畦畔管理技術と、難防除雑草を根まで枯らす技術をあわせた技術をもって施工。定植したシバザクラが法面全面を覆うまで約3年かかるが、覆い茂った後は法面を草刈する必要がなくなる。また、法面を被覆することにより用水路への土砂の流入が少なくなり、用水路管理の省力化が図れる。

シバザクラ植栽面積1.6ha
(うちH19年度の農地・水・環境保
全向上対策で施工14a)



被覆植物(シバザクラ)による 地域の活性化



- シバザクラで敷き詰められた法面は、防草や景観美化の効果に加え、稲の虫害を抑制され、米の品質向上と減農薬栽培に繋がることが期待される。
- 植栽したシバザクラの花が満開となる4月頃に、美しく咲き誇る景観を目指して、地域外から見学に訪れる人が増加し、開花期(約30日間)には、延べ1万人以上が来訪すること。
- “シバザクラの里”として広くPRするとともに、シバザクラの品種見本園の開設や栽培技術相談も受け付けている。



活動を通じて 更に次のステップへ



- 住民自治協議会(自治振興組織)や農業法人と協働し、ため池の汚泥・底樋の調査や草刈を実施。
- この他、多様な主体が参画して、地域活性化や環境保全のための様々なイベントを開催している。

- ・自主施工による水路の補修等
- ・田んぼの生き物調査、水質調査
- ・湿田に開渠排水路を設け水田貯留機能を増進
- ・大学、高校と協働し外来雑草の調査・防止対策

- さらに、特産物の開発など、地域住民の繋がりと都市住民との交流を深めていく計画。

